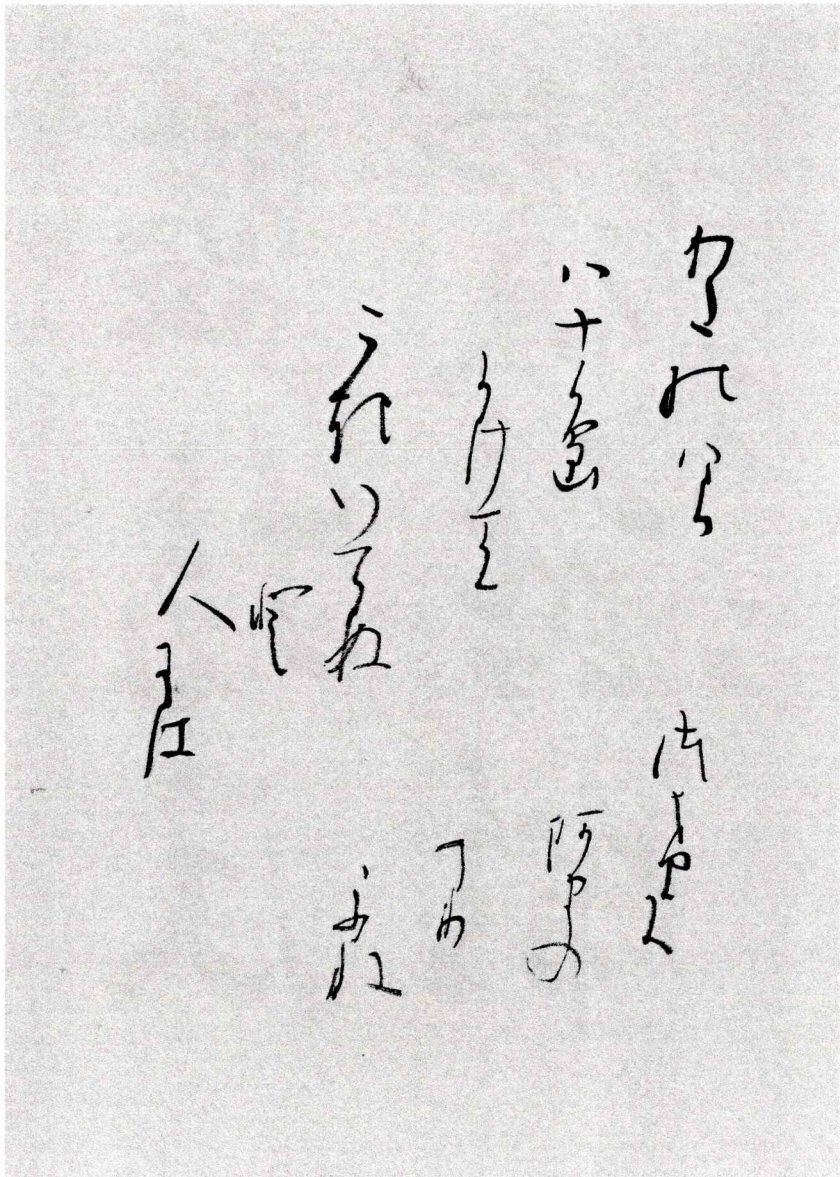


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (十)

わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと 人には告げよあまの釣舟

参議 篁



中村素堂先生の書 大島香菊様提供

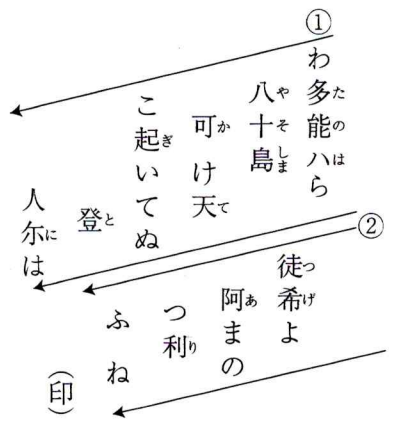
〈歌意〉

「私は大海原を数多くの島々を目指して、舟を漕ぎ出して行ったと、あの人に告げておくれ。そこにいる漁師の釣舟よ。」この歌は『古今集』(鞍旅四〇七番)に出ています。○わたの原は広々とした海。

(参議 篁)

小野氏。延暦二一(八〇二)年仁寿二(八五二)年、五一歳。

〈字母〉



この歌は右上が主、右下が従の2集団構成で、行を階段状にきれいに並べて書かれています。この書式は「雁の乱れ」と言われています。(中村青藍)